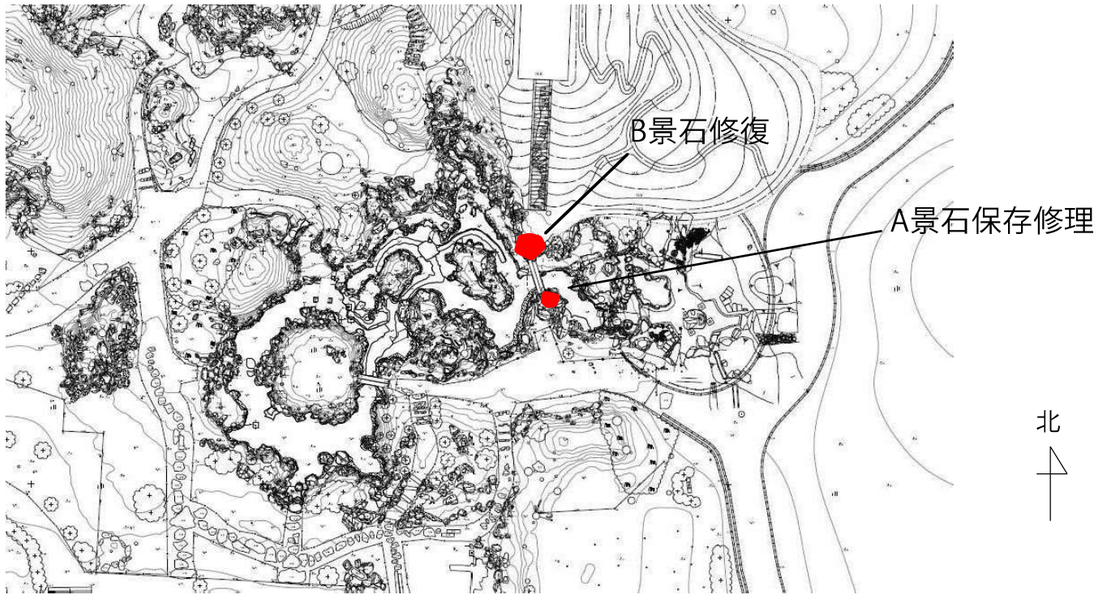
令和3年度(2021)の二之丸庭園北園池修復整備工事について

はじめに

二之丸庭園の北園池は、護岸及び水面の復元に向けて工法や工程を検討しているところであるが、一部で石組が不安定化し崩壊の恐れがある箇所について、取り急ぎ先行して修復を行い安全性を確保する。



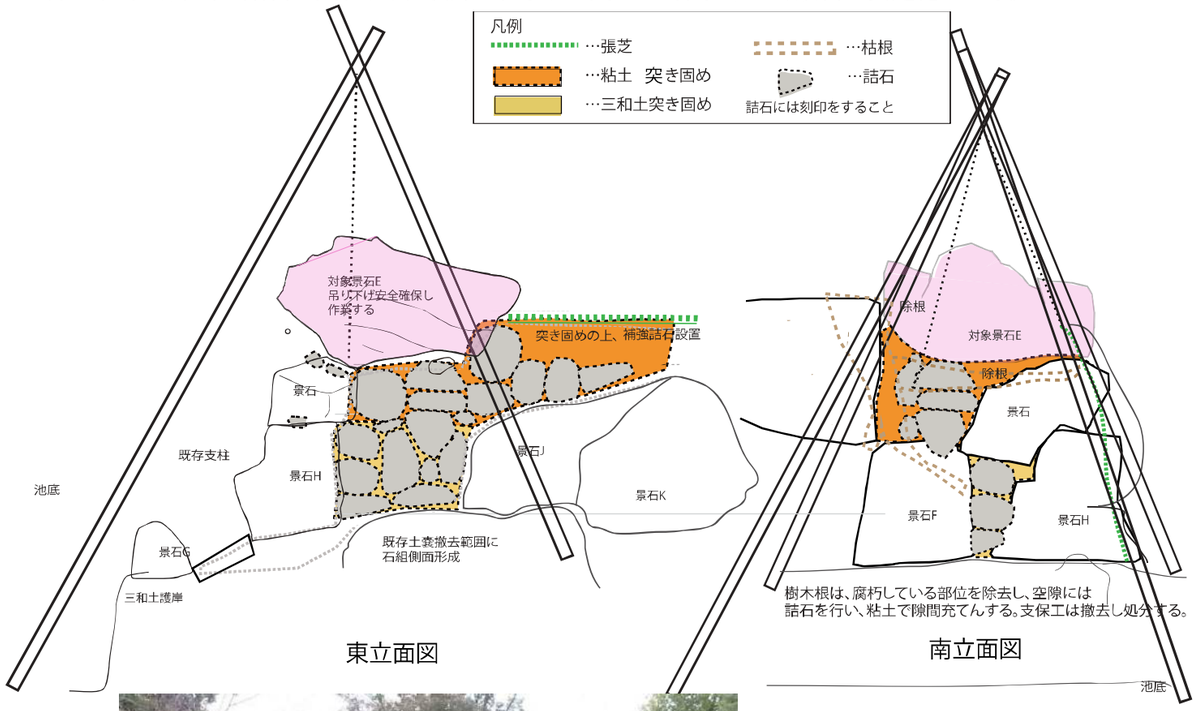
A景石保存修理

石橋南側で橋を支持する石に大きな亀裂が確認される。その亀裂に樹脂等での接着と、意匠復元を行う。

北面の亀裂の状況

B景石修復

石橋の北東にある石組は、樹木が入り込んでいたため平成26年(2015)に伐採したが、残った根の腐食が進み空隙が生じ、不安定な状態になっている。そのため、四又で支保工を組み、上部の景石を支えた状態で根を除去し、隙間に詰石を入れ、それ以外は締まりの良い土で突き固め、景石を安定化させる。

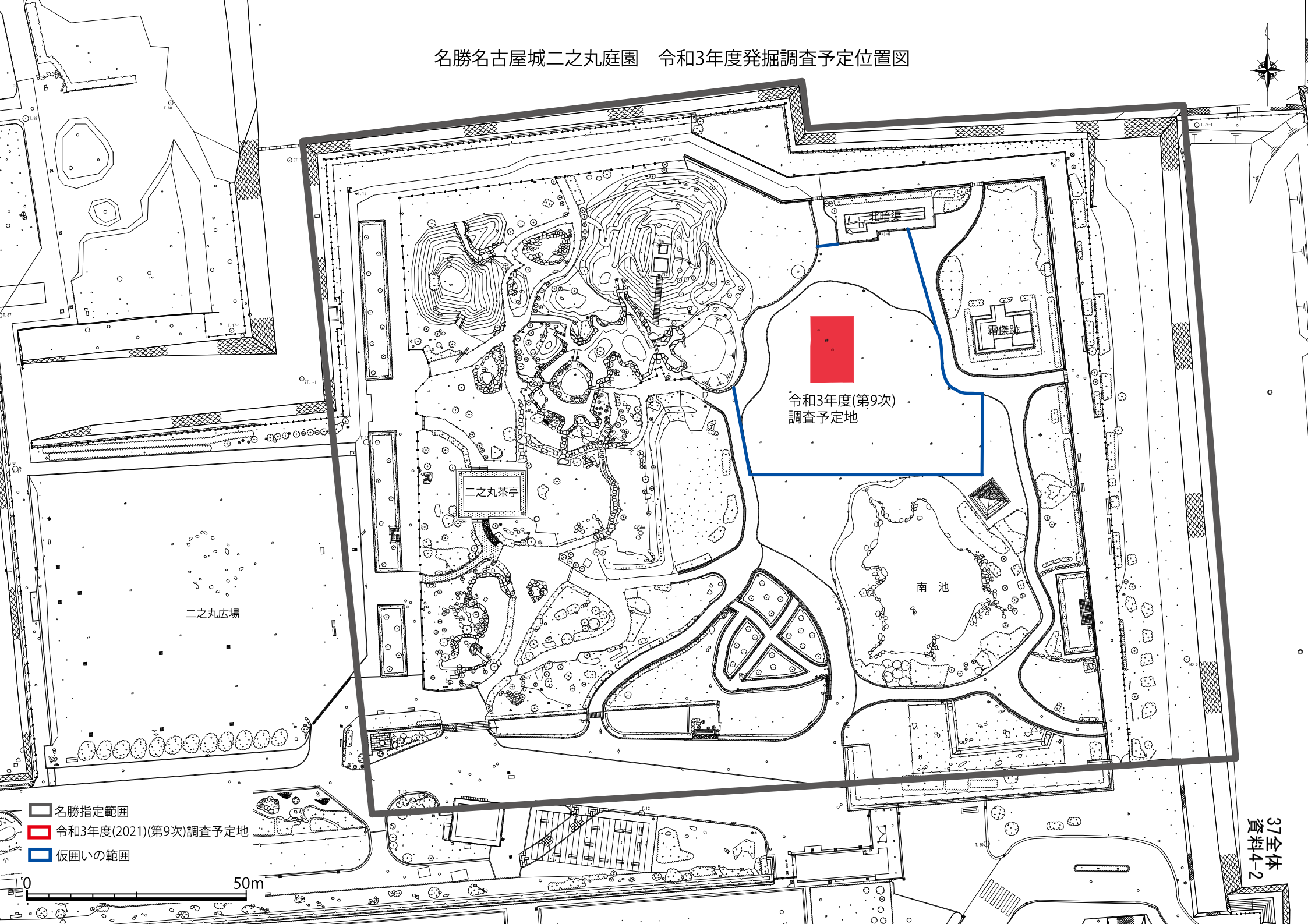


南面の樹木根の状況

対象景石

東側面の空隙状況

名勝名古屋城二之丸庭園　令和3年度発掘調査予定位置図



37全体
資料4-2

令和3年度二之丸庭園発掘調査

調査地点	調査規模			調査目的	掘削方法	調査手順	留意点
	幅(m)	長さ(m)	面積(㎡)				
余芳東側	10	16	160	茶亭「余芳」東側の近世遺構確認のため。 「余芳」部分の発掘調査は平成27(2015)年度の第3次調査で行い、「余芳」の手水を確認している。しかし、「余芳」東側の近世遺構の残存状況については確認できていない。「余芳」の移築再建にあたって周辺の復元整備を行うための検討材料とするため、周辺遺構の状況を確認する。	人力掘削を基本とする。ただし表土は機械掘削とする。	表土は小型重機にて掘削を行う。表土より下層は人力にて近世の盛土上面まで掘削し、遺構の検出作業を行う。平面図および土層断面図を作成し、写真撮影を行う。	芝生は調査後に現況復旧を行う。 平成27年度の調査により判明している基本層序を考慮し、遺構面を傷めないように慎重に掘削作業を行う。近世の盛土上面までの検出にとどめ、遺構の掘削はしないものとする。

調査は名古屋城調査研究センター学芸員が担当する。

現状変更の周辺に仮囲いを設ける。掘削に伴う発生土は調査区脇に仮置きして、シートなどで養生を行う。

調査終了後は遺構面を山砂で保護した後に埋め戻す。

調査する範囲は堆積土の厚みや土の締まり具合によって、作業時の安全確保を優先して縮小することもあり得る。

名勝名古屋城二之丸庭園　発掘調査年度区分図

- 平成25年度(2013)(第1次)
- 平成26年度(2014)(第2次)
- 平成27年度(2015)(第3次)
- 平成28年度(2016)(第4次)
- 昭和49年度(1974)
- 昭和52年度(1977)
- 平成29年度(2017)(第5次)
- 平成30年度(2018)(第6次)
- 令和元年度(2019)(第7次)
- 令和2年度(2020)(第8次)
- 昭和51年度(1976)
- 令和3年度(2021)(第9次)/予定

※昭和49年度～52年度の調査位置は簡易図面からの転記であり、実際の調査範囲とずれが生じている可能性がある。